

## 地域生活交通に係る調査特別委員会 摘 録

1. 開 催 日 令和6年7月4日（木） 第3委員会室
2. 出 席 委 員 宇江田豊彦委員長 前田智永副委員長 谷口隆明 徳永泰臣 五島誠 國利知史  
林高正議長
3. 欠 席 委 員 なし
4. 事務局職員 山根啓荘議会事務局長 横山和昭議会事務局議事調査係長 植木佳那子議会事務局主事
5. 説 明 員 なし
6. 委員外議員 坂本義明副議長
7. 傍 聴 者 なし
8. 会議に付した事件
  - 1 各グループの取組状況について
  - 2 その他

---

午前9時28分 開 議

○宇江田豊彦委員長 それでは、第3回地域交通に係る調査特別委員会を開会します。ただいまの出席委員は全員です。よって、直ちに会議に入ります。本日の会議において、録音、録画、写真撮影、傍聴を許可しております。

- 
- 1 各グループの取組状況について
  - 2 その他

○宇江田豊彦委員長 それでは早速議題に入りたいと思いますが、前回の本特別委員会において確認された事項について、一定の確認をしておきたいと思います。調査の方向性については、これまで、近年、教育民生常任委員会の所管事務調査として、2回にわたり地域交通について調査を進めてまいりました。それは、ほとんどが担当課であったり、先進事例の研究であったり、そういうところの一定の調査を行って報告ということにとどまっております。ですから、本特別委員会は、地域交通に係る利用者、それから提供者の生の声を反映した、本当に具体的に市民の皆さんがどう感じておられるかを調査し、課題を明確にしていくという取り組みを行っていくことを確認させていただいたと思います。それからもう一つは、短期間で調査を実施するために、グループ分けをして具体的な取り組みを進めていくということについても、確認をさせていただきました。各グループにおける今後の取り組みの具体的計画について、本日は皆さんとともに確認行為をしていきたいと思いますので、そのような形で、本日は進めてまいりたいと思います。それでは、前回グループ分けをした各グループから、今後の調査について一定の方向性、計画について御議論をいただいているということですので、そのことについて御報告を1点ずつお願いしたいと思います。まず、通学に特化したJR芸備線の調査について、どのような形で進めていくのか。担当は徳永、國利、宇江田という3名で担当するという事になっております。この件について、徳永委員。

○徳永泰臣委員 JR芸備線の担当ということで、3人で話をしまして、まず、JRの利用状況を知ろうと。学校の思いや生徒さんの思いを知ろうということで、学校については、学校への聞き取りをします。西城紫水高校、格致高校、実業高校、青陵高校、三次高校、日彰館高校はわかりませんが、その辺の学校への聞き取りをするということで計画をしております。それと、生徒の思いを知るために、どういう形で配布するかは別の問題として、アンケートをとろうということで話をしております。利用状況、学校、生徒さんの思いを知るということで取り組むことに決めました。

○宇江田豊彦委員長 当然、個人情報ともかかわりがあるので、どの程度学校が関与してくれるのか、その辺の調整も今の段階でしていくということですね。次に、タクシー利用について。林議長。

○林高正議長 タクシーの利活用と需要調査ということで、一応分けました。谷口議員は東城地区、副議長と私が庄原市内ということで、実は昨日、私と副議長で庄原市内のタクシー事業者、石田タクシー、中央タクシー、りぼんタクシーと相扶園のあんしんタクシーの4カ所の聞き取り調査をしました。相扶園だけは介護施設で普通のタクシー会社とは違うので、これは別に考えなくてはいけませんが、3社の石田タクシー、中央タクシー、りぼんタクシーにお話を伺ったところ、夜間の運行が廃止されたことによって、タクシー会社に対しての要望というか、クレームはほとんどない。ですから、ちまたで、夜間のタクシーがなくなってみんな困るのではないと言われるけれども、さほど影響を受けていない。実態をいろいろ事細かく聞いたのですけれども、飲食屋さんやうまくやられているのです。仲間うちで送り迎えしたり、そこが送って行ってあげたりと、それほどひどいことはなかった。りぼんタクシーが最後までやっておられたので、かなり具体的なお話も聞かせてもらいました。運転手がカスタマーハラスメントによって精神的に若干病み、やめたいという話になって、会社としても、これはもうどうにもできないからやめようということでやめたのだということでした。その他、収支内容とかいろんなことを事細かく伺っておりますけれども、皆さんのmore NOTEへ全てアップされているので、それを見ていただけたらと思います。谷口さん、どうでしたか。

○谷口隆明委員 昨日回ったのですが、アポをとっていませんでした。社長さんがおられませんでした。また改めて回ることになります。帝釈峡タクシーと観光タクシーに行きましたが、まだ話ができていません。

○宇江田豊彦委員長 それでは次に、地域交通に求められるデマンド交通の方向性について、五島委員。

○五島誠委員 前田委員とお話をさせていただき、既に決まっている日程としては、7月18日になんずかんず高野の会という、高野のさまざまな団体の代表者の方などが集まる会議がありますので、そちらへ出席することを決めました。それ以外は、比和と口和と高野の事業者の方々、それから今からアポをとるのですけれども、帝釈、新坂の振興区へデマンド交通のことについてお話を伺いに行こうと思います。またあわせて、Ma a S推進協議会にも一度お話を聞いてみたいと思っております。

○宇江田豊彦委員長 それぞれのグループから報告をいただきました。皆さんから何か質問等ありますか。よろしいですか。調査は計画段階ですから、内容がまだございません。今からそれぞれのグループにおいて、具体的な取り組みをしていただきながら、調査結果について、特別委員会の中で確認しながら進めてまいります。それから、林議長からあった今段階での聞き取り調査についてはmore NOTEにアップされておりますので、これを御参照ください。期限が決まられていますので、11月には終了していかなければなりません。ですから具体的に、本委員会もそれを目指して調査結果について少しずつ集約するという作業をしていくことになろうと思います。今の方向性について、このよ

うな形で各グループで実施をすることについては、委員の皆さん、何か御意見がございますか。よろしいですか。それでは、今報告されたような中身で、今後、調査をしていく、聞き取りをしていくということで進めていきたいと思います。全体を通して今後の進め方について、皆さん何かございますか。よろしいですか。五島委員。

○五島誠委員      先ほど、既に調査された部分については随時more NOTEにアップしていくということだったので、それぞれのグループが聞き取りをしたら、その報告をどんどん共有していく形でいけばいいということですか。

○宇江田豊彦委員長      はい。他にありませんか。調査が進むに従って委員会を開催していきたいと思いますので、そのように御認識ください。次回の委員会を開催するに当たっては、調査具合を見ながら開催しないと全く議論にならないと思いますので、委員長、副委員長で調査状況を把握する中で、次の委員会を開催していきたいと思います。これもよろしいでしょうか。それではグループごとに早期の取り組みをお願いして、本日の特別委員会を閉会したいと思います。よろしいですか。それでは皆さん御苦労さまでした。次の会議もございますので、これできょうの特別委員会を閉じさせていただきたいと思います。御苦労さまでした。

午前9時41分      散      会

---

庄原市議会委員会条例第 30 条の規定により、ここに署名する。

地域生活交通に係る調査特別委員会

委 員 長